

公立大学法人金沢美術工芸大学  
平成29年度 業務実績評価書

平成30年 8月

金沢市公立大学法人評価委員会

## 目次

I	評価方法.....	1
1	評価の構成.....	1
2	項目別評価.....	1
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4～8
	第1-① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	第1-② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	第1-③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	第3 財務内容の改善に関する目標	
	第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	第5 その他業務運営に関する重要目標	

# I 評価方法

## 1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

## 2 項目別評価

### ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

#### 【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を十分に実施している。
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

### イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(4) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

年度計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある ※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある ※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

## II 評価結果

### □ 全体評価

年度計画に定めた全ての項目が着実に実施されており、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

第二期中期目標期間の2年目となった平成29年度も、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

特筆すべきは、「学位授与方針（DP）」の達成のための方策を協議した結果、学力の保証を目的に単位認定について変更し、平成30年度4月入学者よりこれを適用することを決定したことである。具体的には、平成29年度以前の入学者は単位認定の最低到達点を50点としていたが、平成30年度入学者より最低到達点を60点とし、併せて、平成30年度以降の入学者の成績評価は、特に秀でた100点から90点の場合、成績表に「S」の表記をすることとした。

このほか、以下に、大学の特色ある取組や工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・「学位授与方針（DP）」に掲げる、「コミュニケーション能力を修得した」という学修成果を達成するため、英語教育の充実に資するカリキュラム編成に取り組むことが決定され、これを受けて、一般教育科目における外国語科目の一部が、「アクティブラーニング」の要素を取り入れた内容に変更されるとともに、平成30年度より、工芸科にも「専門英語演習」を開講することが決定されたこと。
- ・大学所蔵品のさらなる効果的な活用・展開のため、学内に「美術工芸研究所ギャラリー」を新たに整備したこと。このギャラリーにおいて、大学の所蔵品を紹介する企画展を3回開催するとともに、展示する機会が少なかった大学所蔵の工芸技術の各種標本群である「平成の百工比照」も常設で展示できる体制を整えた。加えて、21世紀鷹峰フォーラム参加事業として、展覧会「平成の百工比照と工芸作品の精華」を本ギャラリーにおいて開催し、市民や工芸に携わる関係者が多数訪れるなど、本学の研究所にて保存している作品をPRする機会となった。
- ・奥能登国際芸術祭に大学として参加し、大きな成果を挙げたこと。具体的には、アートプロジェクトチーム「スズプロ」を有志の学生及び教員らで結成し、珠洲の地理的・社会的・個人的背景を踏まえて「静かな海流をめぐって」をテーマに、飯田地区の明治期に建てられた古民家で4つのプロジェクトを展開した。予算の計上はもとより、完成した作品の紹介や、構想から準備・制作活動に至るまでのドキュメンタリー番組を制作し地元のテレビ放送局を通じてPRするなど、大学を挙げた後方支援を行ったこともあり、「スズプロ」が制作した作品は、作品観覧来場者数が総合2位となるなど、美大の力の国内外への発信に大きく寄与した。加えて「スズプロ」の作品である「奥能登曼荼羅」について、主催者である珠洲市が芸術祭終了後も保存していくことを決定し、大学としても保存・活用に協力することとした。

## □ 項目別評価

### 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

<b>評価</b>	<b>A</b> （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の 59 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している。）が 10 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している。）が 49 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

#### （特筆すべき点等）

##### ○ 特筆すべき点

- ・ 将来の大学院定員の増員の準備として、大学院内に新たに研究生制度をつくり、平成 29 年度中に募集も開始したことで、平成 30 年 4 月より、研究生 7 名を受け入れることを決定したこと。
- ・ 企業や地方公共団体からの依頼について、社会連携センター会議において内容と教育的な効果を確認した上で産学連携事業を 16 件、地域連携事業を 14 件受託し、その成果についても社会から高い評価を得たこと。
- ・ 金沢 21 世紀美術館で行われたインターンに関して、平成 28 年度の経験者による実施報告会を開催し、学生の平成 29 年度のインターン参加に向けた理解と意欲の向上に努めたこと。また、金沢市内小学 4 年生児童招待プログラムである「ミュージアム・クルーズ」に、初めて学生をアシスタントとして参加させ、実践的な教育の機会としたこと。
- ・ 科目等履修生と研究生の制度の運用について抜本的な改善を行ったこと。特に研究生制度について、諸規程の改正を行うとともに、平成 30 年 4 月の入学に向けた募集要項を作成し、受入れに向けた募集を開始したこと。
- ・ 初めて 1 年生を対象としたメンタルヘルス講習会を行い、さらに、この講習会において実施したアンケートの結果を踏まえて今後の講習会のあり方を改善することを決定したこと。
- ・ 学生支援のために、教職員が学生相談室を利用しやすくすることを目的に、リーフレットを作成し、これを用いて全教員が学生相談室をより有効に活用するとともに、学生に対して統一的な観点から適切な指導を実施したこと。

## 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
----	------------------------------

年度計画記載の19の小項目のうち、Ⅳ評価が6項目、Ⅲ評価が13項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

### （特筆すべき点等）

#### ○ 特筆すべき点

- ・ 当初計画にはなかった、地域を越えて海外の作家と交流することを目的とした「テキスタイルアートへのいざないー台湾・金沢現代織物芸術交流展ー」を金沢21世紀美術館で10月に開催し、台湾を代表する作家と金沢市ゆかりの作家が一堂に会する展示会を行ったこと。
- ・ 大連工業大学と交流協定を締結したこと。また、両大学の交流展を開催するとともに、それに合わせて大連工業大学からの訪問団を受け入れ、教員間の交流や金沢の文化と歴史に対する理解を深めたこと。
- ・ 美大と柳宗理との関わりを広く国内のデザイン史に位置付けて紹介する企画展「1955・産業美術・発信」、及びバタフライスツール誕生60周年を記念した企画展「BUTTERFLY STOOL 60th」展を開催したほか、市民向けの公開講座を4回開催したことに加えて、金沢市が主催する「東アジア文化都市2018金沢」と連携し、平成30年度に「柳宗理コレクション展」を初めて研究所以外の場所である金沢21世紀美術館で開催することを決定したこと。

### 3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

<b>評価</b>	<b>A</b> （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の16の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価14項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

#### （特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 志賀町との連携協定に基づき、新たな試みとして志賀町役場庁舎において地元風景を題材にした本学学生の油画展の開催や志賀中学校や志賀高等学校の生徒を対象に本学の制作現場等の見学会に取り組んだこと。

### 4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

<b>評価</b>	<b>A</b> （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の19の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価17項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

#### （特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 学長裁量経費の確保のもとで、美術工芸研究所ギャラリーの開設を行ったほか、これまで事務局で決定していた非常勤講師の全体総額予算を学長自らが見直し、平成30年度予算より、各専攻間に配分する予算額の変更を学長裁量で決定するなど、学長によるガバナンス体制を強化したこと。
- ・ 法人職員計画に上乗せして、柳宗理記念デザイン研究所に平成30年度から新たに学芸員を増員する体制を整えたこと。また同計画にはなかった障害者雇用にも取り組み、臨時職員として1名を雇用するなど、将来を見据えた採用を進めたこと。



## 5 財務内容の改善に関する目標

<b>評価</b>	<b>A</b> （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の13の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が11項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

### (特筆すべき点等)

#### ○ 特筆すべき点

- ・ 文部科学省科学研究費補助金の公募に10件、科学技術振興機構の戦略的研究推進事業（さきがけ）に1件、三谷研究開発支援財団の公募に3件、総務省「異能 varion」プログラムに1件、中山隼雄科学技術文化財団助成研究に1件、出光文化福祉財団助成に1件、三菱財団人文科学研究助成に1件と、合計18件の申請を行ったこと。
- ・ これまでの社会連携事業を通して連携を深めてきた企業への働きかけを継続する一方、新規の問合せ企業に対しては実績をまとめた報告書を用いてPRなどを行う等、外部資金の獲得に努めた結果、産学連携事業を16件、地域連携事業を14件受託し、25,216千円の受託研究収入を計上するなど、当初見込の16,000千円を大幅に上回る収入を得たこと。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

<b>評価</b>	<b>A</b> （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の7の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が6項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

### （特筆すべき点等）

- 特筆すべき点
  - ・ オープンキャンパスでは、在学生を前面に立てる計画を立案して、運営そのものを学生主体に変更するという大規模な改革をしたこと。さらに、学内の案内サインを含む環境整備にも取り組むことでこれまでの開催で最大の1,820人の参加者があったこと。

## 7 その他業務運営に関する重要目標

<b>評価</b>	<b>A</b> （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の19の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が17項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

### （特筆すべき点等）

- 特筆すべき点
  - ・ 新キャンパス基本計画学内ワーキング分科会を立ち上げ、意見交換を重ねた結果、専攻の垣根を越えた共通工房という新しい発想が生まれ、市が実施する検討懇話会や2月に策定した基本計画に美大の意見として反映させることができたこと。
  - ・ 防災備品の状況を確認し非常食を新しいものに更新するとともに、防災備品リストについても、最新の情報に更新し大学全体の危機管理の充実を図ったことに加え、新たに、金沢市中央消防署員を招聘し、教職員を対象に消火器使用方法講習を実践的に行ったこと。